

男子ラクロス部 入れ替え戦で上智大に圧勝

中央大学男子ラクロス部は11月4日、関東学生リーグ戦1部・2部入れ替え戦に東京・江戸川区臨海球技場で臨み、1部Bブロック6位の上智大に22-4で圧勝、2000年以来14年ぶりの1部復帰を決めた。中大は2部Bブロックを5戦4勝1分で1位通過し、入れ替え戦の出場権を得ていた。

■1部・2部入れ替え戦

中大	1Q	6-1	上智大
22	2Q	2-2	4
	3Q	4-1	
	4Q	10-0	

【得点者】田口11、小澤5、中澤3、小湊2、高田1



上智大に勝利し、1部復帰を決めた瞬間(写真提供=中央大学男子ラクロス部)

男泣きの

中大は第1Q(クォーター、20分)途中で早くも6-0と大きくリード。上智大応援席から女子学生が発した「まだ1Qだよー」の激励が悲痛に聞こえる。

今季好調な田口毅治選手(経済

学部3年)がゴールを次々に決める。U22日本代表・小澤徹也選手(商学部3年)のシュートがまた決まった。同じく日本代表の中澤寛選手(文学部4年)が負けじと2人に続く。高田博太選手(経済学部4年)が主将の存

在を示すように得点を刻む。

「42番(田口)をフリーにさせるな」「あつ7番(小澤)にパスが渡るとダメなんだよ」。上智大サイドからは嘆息の声ばかり。

中大G佐藤大輝選手(経済学部2年)=ラクロスではGKをG・ゴリーという=が果敢に右足でシュートを防ぐと「足で蹴ったよ、たいしたもんだ」。パスを遮った中大ディフェンスに「敵ながらナイス・チェックだね」。中大守備陣は自ら「鬼のディフェンス」「圧勝ディフェンス」を標榜している。

1部に残留したい上智大選手は、中大の勢いを止めようと敵愾心むきだしのボディーアタックを仕掛けてくる。さらに上智大ベンチは、中大選手のクロスに不正の疑いをかけて審判員に申し出た。結果は却下され、アピールが逆効果になってしまう。もはや打つ手なしの状態に…。

第4Qは中大のワンサイドだった、10-0。「まるで練習みたい」(上智大サイド)。午後2時2分、試合終了のホイッスルが鳴ると、中大選手は体と体をぶつけあって抱き合った。そのフィールドへ応援に回った部員らが駆け寄り、体を重ね、中大チームは一つの大きな塊となった。1部復帰を誓った夏からの思いが叶った爆発的瞬間だった。

歓喜の塊はすぐに溶けて、リザーブ部員らはフィールドの外にサッと出た。大会進行を必要以上に妨げな



1部復帰

男泣きの1部復帰

男子ラクロス部 入れ替え戦で上智大に圧勝

い気遣いに年配のOB諸氏が満足そうにならずにいた。

高田主将のあいさつは「やったぜ！」で始まった。「1部昇格を達成しました。去年は3部との入れ替え戦に回って、不



安もありましたけど、こっちはみんなが徐々に力をつけ、応援してくださる人も増えてきました。今後とも中央大学男子ラクロス部をよろしくお願いします。ありがとうございました。よし、校歌だ、校歌歌うぞ」

肩を組んで歌い始める。その3m先でも同じように応援した部員、父兄、OBらが肩を組み、選手と向かい合って合唱する。

この日11得点(1試合自己最多)と大活躍した田口選手が号泣していた。着替えたグレーのTシャツはいつしか涙で胸の下あたりまでグショグショだ。

「先輩たちを念願の1部昇格で送り出すことができ、ほんと、よかったです」

「僕らが入ったところは全部員20人くらい、弱くて3部にいました。2年生で2部でプレーして、3年生で1部に昇格するなんて」

「苦しいとき、つらいとき、先輩や後輩みんなと一緒に乗り切ってきたから。うれしくて、うれしくて」

泣いている、みんな泣いている、涙が光り輝いている。人に見られても構わない男の涙である。高橋大輔監督、横田竜ヘッドコーチ、諸星芳行コーチを空高く胴上げしたあとは、選手が関係者と強くハグする姿があらこちらで見られた。

高橋監督が「こっし最後の大舞台で最高の試合ができました。学生たちの頑張り、成長には目を見張るものがありました。支えていただいた皆様に、ただただ感謝です。本当にありがとうございました」と締めくくった。



新しい戦いがすぐに始まった。1部復帰に警戒心を強める強豪大学が練習試合を申し込んできた。練習見学の問い合わせもあるという。田口新主将は「びっくりしました。勝つと

■今シーズン成績

開幕戦	駒沢大	△ 5 - 5
第2戦	大東文化大	○ 24 - 3
第3戦	青山学院大	○ 12 - 11
第4戦	東京学芸大	○ 14 - 5
第5戦	横浜国立大	○ 11 - 5

環境が変わることを知りました」と言って、表情を引き締めた。「負けませんよ」

1年生の育成を目的とした新人戦ウインターステージも12月14日に開幕。22日に決勝トーナメントが行われる。

ここで活躍した選手は、日本ラクロス協会強化部から地域別ユース選抜に招聘される。6月の中国・北京であったU22アジア・パシフィック選手権で日本優勝に貢献した中澤、小澤両選手。この日大活躍した田口、大牧功明(文学部2年)両選手らが関東ユースに選抜されている。次は1年生が大きな目標に向かってクロスを握る。

中央大学校歌3番の歌い始めにある「いざ起て友よ時は今 新しき世のあさぼらけ」は大願を成就し、2000年以来となる1部に復帰した男子ラクロス部の、新時代の幕開けにふさわしい祝いの言葉にも思えた。



同部HP・PVコメントで振り返る 今シーズンの戦いぶり

【駒大戦】(8・20＝学習院大グラウンド)

去年のリベンジが、かかった初戦
リードを許した序盤
4Qで2点リードし、勝利を確信した
しかし、試合終了間際同点に追いつかれ、
リーグ戦の厳しさを思い知らされた



【大東文化大戦】(9・1＝東京・駒沢オリンピック公園第2球技場)

圧倒的勝利を目指して挑んだ第2戦
たくさんの観客の前で
力を発揮し、得点を重ね、
選手・観客全員で喜びを味わった

【青山学院大戦】(9・8＝埼玉・大東大緑山グラウンド)

リーグ戦最大の山場となった第3戦
入れ替え戦進出のために
絶対負けられなかった
1点を守り切り
大きな勝利をつかんだ



【東京学芸大戦】(9・28＝千葉・蘇我フクダ電子スクエア)

無敗同士の戦いであった第4戦
勢いに乗った相手を押さえ
確実に得点を重ね
入れ替え戦進出に大きく近づいた

【横浜国立大戦】(10・20＝東京・大井ふ頭中央海浜公園第2球技場)

念願の入れ替え戦がかかった最終戦
何としても自分たちの力で
ブロック優勝を決めたかった
そしてつかんだ1部への挑戦権
必ず1部昇格することを誓った

様々なことを犠牲にしても
1部昇格を誓った夏
“覚悟”を胸に
全力で突っ走ってきた
“1部昇格”を
夢に終わらせないために
みんなで行こうよ
1部の舞台



■2部リーグ表彰選手



小澤徹也選手



中澤寛選手



高田博太選手



田口毅治選手



大牧功明選手

★ベスト12プレーヤー

小澤、中澤、高田

★得点王

小澤、田口(ともに5試合18得点)

★新人賞

大牧

(選出は、試合ごとのオフィシャル校代表者による投票、
各大学代表者によるポジション別投票による)

■年表

1991	リーグ初出場(2部) →1部昇格
1992	1部
1993	1部
1994	1部
1995	1部
1996	2部
1997	2部
1998	1部
1999	1部
2000	1部
2001	2部
2002	2部
2003	3部
2004	3部
2005	3部
2006	3部
2007	3部
2008	2部
2009	3部
2010	2部
2011	3部
2012	2部
2013	2部
2014	1部